

政策の名称	<b>1 厳しさを増す犯罪情勢に対応するための警察活動の強化</b> <b>(3) 街頭犯罪対策の推進</b> ・街頭犯罪体制強化のための装備資機材の整備																				
政策の内容 ・目的	認知件数が著しく増加し、国民の治安に対する不安感を惹起している街頭犯罪の対策強化に資する資機材の整備を行うことにより、効果的な検挙を行い、国民の治安に対する不安感を緩和する。																				
必要性	<p><b>【公益性】</b>          昨年の刑法犯認知件数は 273 万件を超えて過去最多となり、犯罪の増加が顕著になっている中、街頭や駅等の公共空間における路上強盗等の非侵入強盗、ひったくり、強制わいせつ、暴行、傷害といった生命や身体に直接危害を及ぼす犯罪（以下これらを総称して「街頭犯罪」という。）が著しく増加しており、これらに有効に対処するためには、街頭犯罪捜査用二輪車、車載用昼夜兼用ビデオ監視システム等の整備が必要である。</p> <p><b>【官民の役割分担】</b>          犯罪捜査に関するものであるから、警察が担う必要がある。</p> <p><b>【国と地方の役割分担】</b>          街頭犯罪捜査に不可欠な資機材の整備を促進し、街頭犯罪捜査体制の強化を図るため、警察用車両である二輪車については国が整備して、都道府県警察が活用し、装備資機材については国が補助金を支出し、実際に捜査を行う都道府県警察が必要な資機材を整備、活用することとなる。</p> <p><b>【民営化・外部委託の可否】</b>          犯罪捜査に関するものであることから、民営化等は不可能である。</p> <p><b>【緊急性の有無】</b>          街頭犯罪の増加は、国民にいつ自らが犯罪の被害者になるかもしれないという不安を強く惹起し、ひいては治安に対する不安感を増大させているところであり、街頭犯罪対策の強化は喫緊の課題となっている。</p> <p><b>【他の類似政策】</b>          なし。</p>																				
達成効果等	<p><b>【今後見込まれる効果】</b>          犯行を予測し、発生多発地帯においてよう撃捜査体制をとった上、犯行現場における一斉検挙が可能となる。          犯行容疑車両を自動二輪車により秘匿追尾し、容疑者の検挙が可能となる。          各種装備資機材を活用し、夜間帯等における尾行・張込み捜査等が可能になる。</p> <p><b>【効果の発現が見込まれる時期】</b>          本資機材が整備され、都道府県警察により活用されたとき。</p>																				
予算額	<p><b>【平成 15 年度要求額】</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">警察装備費（補助金）</td> </tr> <tr> <td>・車載用昼夜兼用ビデオ監視システム</td> <td style="text-align: right;">61,483 千円</td> </tr> <tr> <td>・超小型カメラ（M 型）</td> <td style="text-align: right;">47,856 千円</td> </tr> <tr> <td>・ナイトビュー</td> <td style="text-align: right;">49,697 千円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">（他局関連）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">車両購入費（国費）</td> </tr> <tr> <td>・街頭犯罪捜査用二輪車</td> <td style="text-align: right;">77,673 千円</td> </tr> <tr> <td>警察装備費（補助金）</td> <td style="text-align: right;">6,137 千円</td> </tr> <tr> <td>・モーターバイク等維持費</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">合計 242,846 千円</td> </tr> </table>	警察装備費（補助金）		・車載用昼夜兼用ビデオ監視システム	61,483 千円	・超小型カメラ（M 型）	47,856 千円	・ナイトビュー	49,697 千円	（他局関連）		車両購入費（国費）		・街頭犯罪捜査用二輪車	77,673 千円	警察装備費（補助金）	6,137 千円	・モーターバイク等維持費		合計 242,846 千円	
警察装備費（補助金）																					
・車載用昼夜兼用ビデオ監視システム	61,483 千円																				
・超小型カメラ（M 型）	47,856 千円																				
・ナイトビュー	49,697 千円																				
（他局関連）																					
車両購入費（国費）																					
・街頭犯罪捜査用二輪車	77,673 千円																				
警察装備費（補助金）	6,137 千円																				
・モーターバイク等維持費																					
合計 242,846 千円																					
効率性	<p><b>【代替的手段の有無】</b>          街頭犯罪は、自動車、自動二輪車等機動力を有する車両が利用されて広域にわたり、かつ、体制の薄い夜間帯に、大多数の犯行が敢行されるため、これらの犯罪に適切に対処するためには、機動力を有する車両や各種資機材の整備が不可欠であり、他に代替手段はない。</p>																				

	<p><b>【他の事業との連携】</b> なし</p> <p><b>【効果とコストとの関係についての分析】</b> 平成 15 年度に街頭犯罪捜査体制強化のための装備資機材を整備することにより、犯行を予測し、発生多発地帯においてよう撃捜査体制をとった上、犯行現場における一斉検挙が可能となる、犯行容疑車両を自動二輪車により秘匿追尾し、容疑者の検挙が可能となる、装備資器材の活用により、夜間帯等における尾行・張込み捜査等が可能になるなど、本資機材を整備しないことによる捜査負担等のコストを考慮すると、街頭犯罪へ対応するための機動力・捜査力などの点で、はるかに効率的で、国民の不安感の緩和に資するが、定量的な分析は困難である。</p>		
学識経験を有する者の知見の活用	なし。		
その他			
政策所管課	刑事企画課	評価実施時期	平成 14 年 8 月